



平成 28 年 6 月 30 日

各 位

株 式 会 社 フ ィ ス コ  
代 表 取 締 役 社 長 狩 野 仁 志  
( J A S D A Q ・ コ ー ド 3 8 0 7 )  
問 い 合 わ せ 先 :  
取 締 役 管 理 本 部 長 松 崎 祐 之  
電 話 番 号 0 3 ( 5 7 7 4 ) 2 4 4 0 ( 代 表 )

株式会社ネクスグループによる株式会社チチカカの株式取得（連結子会社化）  
及び新事業の開始に関するお知らせ

当社の連結子会社である株式会社ネクスグループ（以下「ネクスグループ」といいます。）は、本日開催の取締役会において、株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーション（以下「ヴィレッジヴァンガード」といいます。）の子会社である株式会社チチカカ（以下「チチカカ」といいます。）の発行済株式の 90%を取得し連結子会社化すること及びヴィレッジヴァンガードがチチカカに対して有する貸付債権を取得すること並びに「アパレル小売業」を新たに開始することを公表しましたので、添付参考資料のとおりお知らせいたします。

また、本株式取得に伴う当社の「取得株式数、取得価額及び取得前後の所有株式の状況」は以下のとおりであります。当社は、チチカカの議決権の 90%を間接的に有することから、チチカカは、当社の連結子会社となります。

異動前の所有株式数	一株 (議決権の数：一個) (所有割合：－%)
取得株式数	1,791 株 (議決権の数：1,791 個)
異動後の所有株式数	1,791 株 (議決権の個数：1,791 個) (間接所有割合：90%)
取得価額	株式：1,791 円

なお、ネクスグループによる当該増資及び株式等譲渡に関する契約締結による当社の平成 28 年 12 月期の連結業績に与える影響につきましては現在精査中であり、業績予想の修正を行う必要が生じましたら、すみやかに公表いたします。

以 上

平成 28 年 6 月 30 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ネ ク ス グ ル ー プ  
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 秋 山 司  
( J A S D A Q ・ コ ー ド 6 6 3 4 )  
問 合 せ 先  
役 職 ・ 氏 名 代 表 取 締 役 副 社 長 石 原 直 樹  
電 話 0 3 - 5 7 6 6 - 9 8 7 0

## 子会社等の異動を伴う株式の取得及び新事業の開始に関するお知らせ

当社は、2016年6月30日開催の取締役会において、株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーション（以下「ヴィレッジヴァンガード社」といいます。）から、株式会社シークエッジ・インベストメントとともに、ヴィレッジヴァンガード社の連結子会社である株式会社チチカカ（以下、「チチカカ」といいます。）の発行済株式の100%（うち当社取得は90%）及びヴィレッジヴァンガード社がチチカカに対して有する貸付債権を取得し、連結子会社化することに伴い、「アパレル小売業」を新たに開始することを決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 株式の取得の理由及び事業開始の趣旨

当社が注力するM2M市場においては、急速な市場拡大が見込まれており、市場規模は2013年に約2,300億円であったものが、2018年には1兆円を超える試算があるなど（出所：野村総合研究所「ITナビゲーター2015年版」）、引き続き非常に関心が高まっております。このような事業環境において、子会社である高付加価値の通信機器デバイスを製造する株式会社ネクスト、同じく子会社で、2013年12月11日付け適時開示「株式会社SJIと当社子会社との吸収分割契約締結に関するお知らせ」のとおり、株式会社SJI（以下「SJI」といいます。）が営む中部事業部、関西事業部及び九州事業部におけるシステム開発事業を吸収分割により承継した株式会社ネクスト・ソリューションズによって、デバイス製品のハードの提供だけに留まらず、サーバーアプリケーションや、その他のアプリケーションサービスなどのM2Mソリューションサービス、それをとりまくIoT分野へ注力しております。

また、2015年6月にはSJIと資本業務提携契約の締結を行い、第三者割当増資、新株予約権の引き受けにより同社を子会社化いたしました。SJIは、保有する金融分野でのシステム開発のノウハウを活かし、新たにフィンテック分野への進出を果たし、2016年2月にはAI（人工知能）株価自動予想システムの開発に着手するなど、先進的な技術を開発に取り組んでおります。

さらに、2016年12月にはこれまで通信を必要としなかった異業種へのIoT導入事例として、2012年より取り組んでいました「農業ICT事業」を、当社の将来を担う事業の1つとする為に、自社で運営する農場の規模を140坪から総面積1,640坪まで拡大し農作物の生産、加工、販売を行う「6次産業化事業」と、特許農法による化学的土壌マネジメント+ICTシステムのパッケージ販売をおこなう「フランチャイズ事業」を開始し、事業化を推進致しております。

このように、当社はデバイス製品のハードの提供からM2M分野のソフトウェアの提供、またそれをとりまくIoT分野、さらにはフィンテックなどの先進的技術へ注力することで、様々な産業分野

への通信をはじめとするソリューションの提供をおこない、利便性の向上、遠隔制御の高度化による人件費コスト削減など様々なサービスの提供を目指しております。

一方で、チチカカはエスニックファッションやエスニック雑貨の輸入販売をおこなっております。中南米など世界各国の生産者と直接取引をして、オリジナルのエスニック衣料、雑貨を作っており、中南米の独特なデザインでありながら、日本人好みのカラー・アレンジメントが好評を得ています。また、営業店舗は、イオンモールや、ららぽーとなどの大型ショッピングセンターをはじめ、国内137店舗（2016年3月時点）を展開しております。

チチカカの業績につきましては、直近では2期連続の赤字となっております。現在の業績不振の大きな原因としては、売上拡大路線の急激な出店のための有利子負債増加が要因とのことです。また、出店スピードに対し人材の教育が追いつかなかったことや、物件の善し悪しの検討が充分に出来ていなかったことで、想定する集客が見込めず、新店舗出店によるコスト増加分を吸収するだけの売上の確保が出来なかったとのことです。さらに商品力という点でチチカカらしさというニッチな領域よりも、マス向けの競争過多の領域に踏み込んでいったため、価格競争にさらされ、客数が減少し、それをリカバリーするために過剰なセール販売を繰り返した事で、さらに収益力が低下した結果、2016年3月期決算において営業損失870百万円を計上し、事業構造改革費用（店舗撤退にかかる減損損失他）を特別損失に計上したことにより、2,486百万円の当期純損失損となり、2,207百万円の債務超過となったとのことです。

チチカカの親会社であるヴィレッジヴァンガード社は、チチカカに対する事業構造の改善をおこなうことを喫緊の課題とし、本部組織のスリム化や、物流の効率化などを実施してきましたが、十分な収益改善には至らなかったとのことです。そして、ヴィレッジヴァンガード・グループ自体の事業構造の改革が必要であると判断され、さらなる成長を遂げていくために集中と選択を行い、エスニックファッション及びエスニック雑貨分野については、事業再生の経験やノウハウ、シナジー効果の高い会社に譲渡することを検討してきたとのことです。

この度、親会社であったシークエッジインベストメントインターナショナルリミテッド（2016年3月22日の株式移動により現在は「その他の関係会社」となっております）の兄弟会社である株式会社シークエッジ・インベストメントが昨年より投資を検討しておりましたチチカカが、当社にとって非常に魅力的な投資であるとの判断をされ、2016年6月初旬に、本案件を当社に紹介いただきました。当社も本案件を魅力的と判断したため、当社主導での投資を株式会社シークエッジ・インベストメントに対し要請しました。そして、株式会社シークエッジ・インベストメントの紹介によりヴィレッジヴァンガード社との面談を経て、今回の運びとなりました。なお、株式会社シークエッジ・インベストメントへの紹介手数料等の支払いは一切ございません。

当社は前述した通り様々な産業分野へのIoTの導入を目指しておりますが、その内のターゲットとしてファッション事業や飲食事業を検討しております。

昨今ファッション業界にもIT化の動きが出ており、デバイス機器を利用した店舗在庫の管理や、AR（仮想現実）を利用した試着サービス、販売データなどをビッグデータ化しAIと組み合わせる事でお客様の好みに合わせたアイテムをレコメンドするサービス、また衣類そのものに導電性の高い繊維やセンサーを組み込んでウェアラブル端末の操作をしたり、生体データの送信をしたりするなど、様々な展開が考えられます。

当社は現在まで培ったデバイス機器の組み込み技術とアプリケーションサービスを組み合わせる事で、新たなIoTサービスをチチカカと共同で開発していきます。

また、チチカカにはBtoCとしての小売業のノウハウが有り、全国に運営店舗を有しております。現在の当社でのサービスはインターネット旅行事業を除き、ほとんどがBtoBのビジネスになって

おります。今後は、農業 ICT 事業の生産物の販売などの BtoC に加え、デバイス製品やアプリケーション等もコンシューマー向け製品の開発および販売を手掛けていく予定です。その際に、チチカカでのノウハウと、全国にリアル店舗をもつという事が当社の今後の事業展開において非常に大きな強みとなると考えております。

現在チチカカでは、自助努力により 2016 年 3 月時点で 137 店舗あった店舗を選別し、2017 年 3 月には 99 店舗まで縮小させるリストラクチャリングを行っております。また、製品の生産を第三国（バングラディッシュやミャンマー）へシフトする事により仕入値の減額、その他、販管費などの見直しを行っております。また、店舗縮小にかかる費用については 2016 年 3 月期の決算において事業構造改革費用を特別損失として計上をしていることと、後述いたしますこの度の株式取得に関する一連のスキームの実施により、有利子負債が大幅に圧縮され支払利息が減ることで、今期より黒字化する事が見込まれます。連結子会社化した後は、管理部門の効率的な運用や、当社グループを含めた保険や委託契約などの各種契約のボリュームディスカウント、外注委託業務の内製化など更なる費用効率化に向けた支援をおこなってまいります。さらに、有利子負債の圧縮により財務内容も改善され、自立回転が出来る会社となる予定です。当社からの運転資金などのファイナンスは現状想定しておりませんが、会社の状況に応じて様々な支援はしていく予定です。

以上のことより、当社のファッション事業への IoT 導入にむけた開発と検証がスムーズにできること、将来的にチチカカで IoT を利用した新サービスを提供するなどのシナジーが見込まれること、また、今後の当社のコンシューマーに向けたマーケティングにおいてチチカカのもつ小売業のノウハウと多くのリアル店舗を利用できることが見込まれます。そして、チチカカ作成の事業計画によると、チチカカで上記進行中のリストラクチャリングや、仕入先の変更をおこなう事等により収益構造が改善し今期から黒字化が見込まれております。当社では、さらに本件スキームの実施により有利子負債が大幅に圧縮されること、また、チチカカが実施中の計画の前倒しにより、キャッシュフローがさらに改善する計画を見込んでおります。当該当社作成の計画においては、今後 3 年をめぐりに金融機関に対する有利子負債額を上回るキャッシュフローが十分見込まれることから、当社としてチチカカの連結子会社化を決定致しました。

今後も、当社は様々な産業に向けて IoT の導入をすすめ、事業規模の拡大と収益の最大化を図ってまいります。

## 2. 異動の方法

チチカカが 2016 年 8 月 1 日に実施する増資を完全親会社であるヴィレッジヴァンガード社が引き受け、その後、ヴィレッジヴァンガード社が保有するチチカカの発行済株式のうちの 90%相当の株式及び全貸付債権を、当社が譲受し、チチカカを連結子会社とし、チチカカの発行済株式のうちの 10%相当を株式会社シークエッジ・インベストメントが譲受けいたします。

2016 年 8 月 1 日にチチカカが実施する増資の金額は 2,376 百万円となり、そのすべてをヴィレッジヴァンガード社が引き受けます。チチカカはその資金全額を、2016 年 7 月末時点でチチカカが有する予定の有利子負債 5,752 百万円の返済の一部に使用します。また残債務のうち、チチカカが 2016 年 7 月末時点でヴィレッジヴァンガードに対して負う予定の有利子負債 2,003 百万円については、当社が 8,891,584 円で取得を致します。この有利子負債 2,003 百万円について、現在は債権放棄を行うことは予定しておりません。この度の株式取得に関する一連のスキームの実施により、チチカカの有利子負債は 5,752 百万円から 3,376 百万円まで圧縮される予定で、その内訳は、対金融機関に対する負債 1,373 百万円、当社向けの負債 2,003 百万円となります。

当社はこの増資後のチチカカ株式の90%相当の1,791株を1株1円（合計1,791円）で、株式会社シーケッジ・インベストメントは増資後のチチカカ株式の10%相当の199株を1株1円（合計199円）でそれぞれ取得いたします。

また、有利子負債2,003百万円の取得価格につきましては、ヴィレッジヴァンガード社と協議の結果、有利子負債を除いたチチカカの事業価値をおおよそ1,382百万円と合意し、対金融機関に対する負債である1,373百万円との差額の8,891,584円を譲渡代金とすることとしました。

### 3. 異動する子会社の概要

(1) 商号	株式会社チチカカ		
(2) 所在地	神奈川県横浜市港北区新横浜二丁目2番地3		
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役 田中義章		
(4) 事業の内容	エスニックファッション及びエスニック雑貨の輸入販売		
(5) 資本金	99百万円		
(6) 設立年月日	2005年7月1日		
(7) 大株主及び持ち株比率	株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーション 100%		
(8) 上場会社と当該会社の関係	資本関係	該当事項はありません。	
	人的関係	該当事項はありません。	
	取引関係	該当事項はありません。	
	関連当事者への該当状況	該当事項はありません。	
(9) 当該会社の直近3年間の経営成績及び財政状態（単体）	（単位：百万円 日本円）		
	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期
純資産	1,109	278	△2,207
総資産	6,678	7,001	4,967
1株当たり純資産（円）	1,120,852.11	281,802.12	△2,229,887.51
売上高	7,369	8,655	8,281
営業利益	349	△540	△870
経常利益	294	△565	△987
税引前利益	267	△742	△2,452
当期純利益	148	△830	△2,486
1株当たり当期純利益（円）	150,337.55	△839,049.99	△2,511,689.63
1株当たり配当金（円）	—	—	—

### 4. 株式取得の相手先の概要

(1) 商号	株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーション
(2) 所在地	愛知県名古屋市名東区上社一丁目901番地
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役社長 白川 篤典
(4) 事業の内容	(1) 書籍、雑誌の出版、卸、販売

	(2) インテリア小物、室内装飾品、家具、装身具、時計、喫煙具、玩具、文具、楽器、衣料品、食料品、煙草、酒類、一般用医薬品、医療機器、その他日用品雑貨等の企画、制作及び輸出入、卸、販売 (3) レコード、コンパクト・ディスク、ミニ・ディスク、デジタル・ビデオ・ディスク、デジタルコンテンツ等の企画、制作、販売	
(5) 資本金	2,242百万円	
(6) 設立年月日	1998年5月	
(7) 純資産	連結 12,212百万円	(単体) 12,323百万円
(8) 総資産	連結 32,698百万円	(単体) 26,298百万円
(9) 大株主及び 持ち株比率	菊地 敬一 23.17% STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505224 9.74% (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	
(10) 上場会社と 当該会社の関 係	資本関係	当該事項はありません。
	人的関係	当該事項はありません。
	取引関係	当該事項はありません。
	関連当事者への該 当状況	当該事項はありません。

#### 5. 取得株式数、取得価額及び取得前後の所有株式の状況

異動前の所有株式数	一株 (議決権の数：一個) (所有割合：-%)
取得株式数	1,791株 (議決権の数：1,791個)
異動後の所有株式数	1,791株 (議決権の個数：1,791個) (所有割合：90%)
取得価額	株式：1,791円*

\*本件株式取得に伴い、ヴィレッジヴァンガード社がチチカカに対して有する貸付債権2,003百万円について、当社が8,891,584円で取得致します。

#### 6. 日程

- |                                |               |
|--------------------------------|---------------|
| (1) 増資及び株式等譲渡に関する契約に関する取締役会決議日 | 2016年6月30日    |
| (2) 増資及び株式等譲渡に関する契約締結日         | 2016年6月30日    |
| (3) 増資及び株式等譲渡実行日               | 2016年8月1日(予定) |

#### 7. 今後の見通し

本増資及び株式等譲渡に関する契約締結による平成28年度11月期の当社業績に与える影響は精査中であり、業績に与える影響額が判明し次第、速やかにお知らせいたします。

以上